

川崎駅周辺総合整備計画 (案)

令和8 (2026) 年1月
川崎市

目次

1 総論

- (1) 改定の主旨
- (2) 計画の位置づけ
- (3) 計画期間

2 駅周辺のまちづくりの状況

- (1) 計画期間内での主な取組と効果
- (2) 社会環境の変化
- (3) 駅周辺のまちづくりの状況
- (4) 市民意見等の把握
- (5) 計画改定にあたっての主な視点

3 目指す市街地像・まちづくりの基本方針と基本施策等

- (1) 基本方針・基本施策等の体系
- (2) ゾーニング図

4 計画期間の取組等

5 計画の推進に向けて

参考資料

- 参考1 まちづくりを取り巻く環境変化とこれまでの取組
- 参考2 市民意見等の把握

(1) 改定の主旨

川崎駅周辺地区は、川崎区及び幸区に位置し、多摩川を挟んで東京都大田区に隣接しています。東京駅から南西約20km、横浜駅から北東約10kmの距離にあり、東京と横浜の中間に位置する交通の要衝です。

東京圏国際戦略特区、京浜臨海部ライフィノベーション国際戦略総合特区内に位置しており、さらに都市再生緊急整備地域にも位置づけられ、国際競争力の強化と都市機能の高度化が求められる重要な拠点となっています。

また、市全体の活力を高め持続可能なまちづくりを牽引する本市の玄関口である広域拠点として、これまでのストックや羽田空港との近接性など地理的優位性を活かし、都市機能の集積や更新、さまざま人々が集い交流が生まれる空間の整備と活用、交通結節機能の強化等、更なる魅力の向上を計画的に進めていくことが求められています。

本市では、平成18（2006）年4月に「川崎駅周辺総合整備計画」を策定し、平成28（2016）年3月の改定を経て、川崎駅北口通路の整備、大宮町西口地区における民間活力を活かした土地利用の誘導など、段階的に計画的なまちづくりを進めてきました。

前回の計画改定から約10年が経過し計画期限を迎えるとともに、少子高齢化が進行する中、持続可能な都市機能の維持・確保が大きな課題となっています。さらに、新型コロナウイルス感染症を契機とした生活様式の変容（アフターコロナ）、デジタル技術を活用した取組（DX）の推進、「人と自然が共生する幸福な社会の実現」に向けて目標とすべき「みどりの将来像」の策定や心の豊かさ（ウェルビーイング）を重視した居心地のよい都市空間づくりに加え、脱炭素社会の実現やSDGsの達成、グリーントランスポーメーション(GX)、再生可能エネルギーの活用など、環境都市を目指す取組が強く求められています。

こうした社会環境や駅周辺を取り巻く状況変化などを踏まえ、これまでの取組の成果を活かしつつ、新たな課題等に対応した多様な魅力と活力にあふれたまちづくりを推進するため、本計画を改定します。

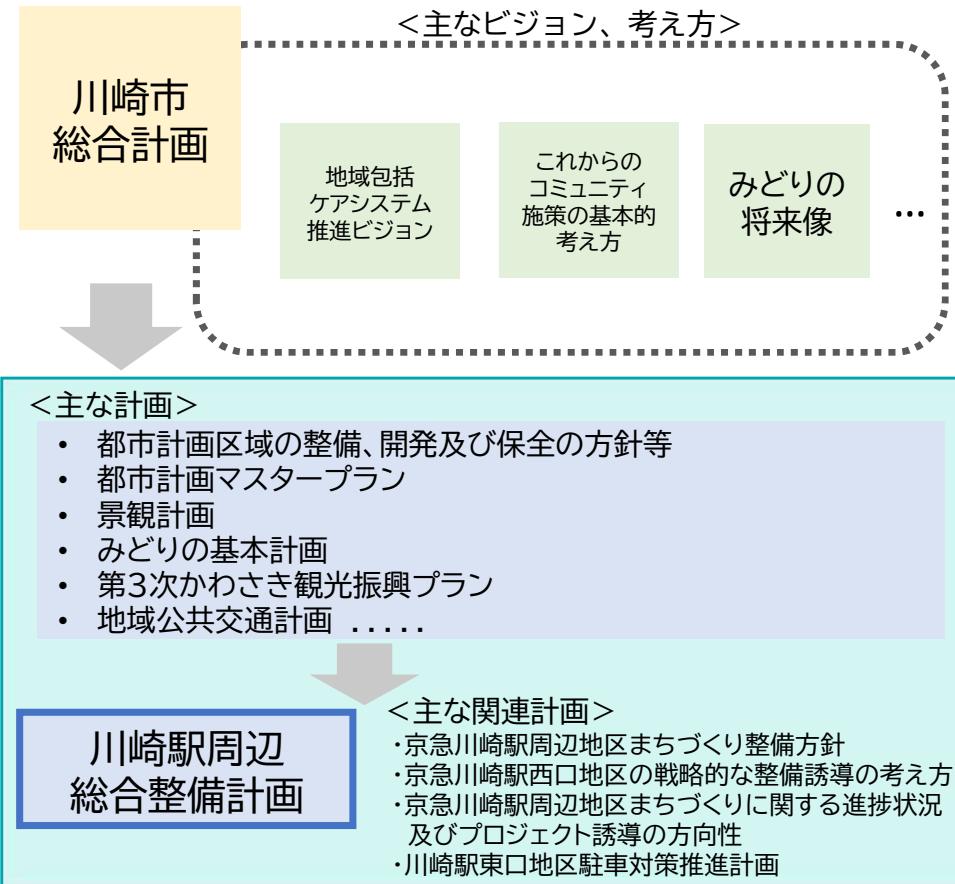
<図 川崎駅周辺地区の位置>



(2) 計画の位置づけ

本計画は、川崎駅周辺地区におけるまちづくりの方向性等を示す計画です。
「川崎市総合計画」を踏まえるとともに、「都市再開発の方針」や「都市計画マスタープラン」等の計画とも連携した計画として位置づけます。

<図 計画体系図>



(3) 計画期間

計画期間は、「川崎市総合計画」と整合を図り、令和8（2026）年度から12年間（令和19（2037）年度まで）を対象とします。

計画の推進に向けては、「川崎市総合計画実施計画」と整合を図り、概ね4年ごとに計画の取組内容の時点更新を行います。

<図 整備計画の計画期間>

	R 7 (2025) 年度	R 8(2026) 年度 ～ R 11(2029) 年度	R 12(2030) 年度 ～ R 15(2033) 年度	R 16(2034) 年度 ～ R 19(2037) 年度
川崎駅周辺 総合整備 計画	(H28年度から R7年度)	(R8年度からR19年度)		
川崎市総 合計 画	基本構想	基本構想	新たな総合計画 基本構想 (30年程度を展望)	
	基本計画	(H28年度から R7年度)	(計画期間12年間)	
	実施計画	第3期 (R7年度まで)	第4期 (R8年度から R11年度)	第5期 (R12年度から R15年度)

2 駅周辺のまちづくりの状況

(1) 計画期間内での主な取組と効果

平成28(2016)年に改定した計画に基づき、民間活力を活かした土地利用の誘導や都市基盤整備、公共空間を活用したイベント実施による賑わい創出など、段階的に計画的なまちづくりを進めています。



■計画対象区域内16地点の路線価の平均 (単位:千円/m²)



[出典:財産評価基準書(国税庁)]

■市内各拠点駅周辺の人口変化 (単位:人)



[出典:川崎市町丁別世帯数・人口]

■交通量調査結果の比較(単位:人)
(調査地点:JR川崎駅中央通路)



[出典:R7年7月・H30年6月実施交通量調査結果]

■公共空間の活用に期待する人の割合変化 (単位: %)



[出典:みんなの川崎祭のアンケート結果]

- 計画に基づく、民間活力を活かした多様な都市機能の集積や交通環境の整備などにより、路線価の上昇や人口の増加など、定量的な効果が得られています。
- 市制100周年や全国都市緑化かわさきフェア、東海道川崎宿起立400年などを契機として、公共空間や既存ストックの活用、アートの蓄積等により、賑わいの創出や回遊性が向上しました。

2 駅周辺のまちづくりの状況

(2) 社会環境の変化

前回改定時からの主な状況変化

平成28(2016)年の計画改定から約10年が経過する中で、本市を取り巻く社会環境に変化が生じています。

■ 少子高齢化・人口減少に対応できる持続可能な都市機能の維持・確保



少子高齢化・人口減少による社会構造の変化を背景に、まちづくりの担い手を**官民が連携して実施**することにより、より効果的・効率的な都市機能の維持・確保につなげることが求められています。

官民連携

■ 新型コロナウイルス感染症を契機とした新たな生活様式に対する対応



新型コロナウイルス感染症の影響により、都心オフィスなど「都市の過密」という課題が顕在化したこと、テレワークの導入促進やオフピーク通勤などこれまでの都市における働き方や住まい方が見直され、**居心地の良い都市空間づくり**が求められています。

アフターコロナ

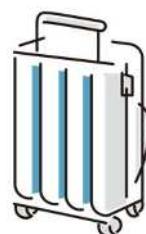
■ 市民の心の豊かさに繋がるウェルビーイング



精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える考え方が重視されています。また、地域の自然の豊かさや環境保全の状況、防災など都市や地域の生活環境は、地域の持続可能性とともに**地域住民の生活の質（ウェルビーイング）**を確保する観点からも重要です。

ウェルビーイング

■ 外国人観光客への対応



観光庁は、「インバウンド拡大アクションプラン」において、「外国人観光客を呼び込む」という観点から更に視野を広げて、**インバウンド需要をより大きく効果的に根付かせる方策**を取りまとめています。**増加傾向にある訪日外国人への案内や資源の発掘**が求められています。

インバウンド

■ 歴史的な地域資源など既存ストックの有効活用



近年、まちなかにおいて多様な人々が集い、交流することができる空間を形成し、地域が有する歴史的資源を活用しながら都市の魅力を向上させることが求められています。また、官民連携による**既存ストックを活用した歩きたくなる空間の創出**が求められています。

ウォーカブル

■ デジタル技術の活用



自動運転技術など、革新的な技術の進展は、**社会や生活様式に大きな変化**をもたらしています。市民サービスの質の向上を図るために、行政分野においてもデジタル化の取組を行うことが求められています。

DX

2 駅周辺のまちづくりの状況

(2) 社会環境の変化

関連計画の状況

平成28(2016)年の計画改定から約10年が経過する中で、駅周辺のまちづくりに関連性の高い計画の策定・改定が行われています。

■ 川崎市みどりの将来像の実現に向けた取組の推進

「みどりのKAWASAKI宣言」において目指すこととしている、「人と自然が共生する幸福な社会の実現」に向けて目標とすべき「みどりの将来像」をとりまとめており、「緑のつながり」「人のつながり」「みどりを活かしたまちづくり」の3つの柱が成長することにより、自然と都市が共に成長する持続可能な好循環を生み出し、生活の質・地域価値の向上や地域・地球環境課題の解決につなげていくこととしています。本計画にも反映し、取組を推進します。



■ 川崎市地域公共交通計画などによる新たな交通技術等への対応とその基盤づくり

高齢化や人口減少、ICTを活用した新たなモビリティの普及、脱炭素社会へ向けた動きなどの社会環境の変化を踏まえ、身近な地域交通などに係るさまざまな交通課題や、環境課題に対応するとともに、市民の暮らしやすさと移動しやすさを組み合わせた持続可能な交通環境の形成及び環境に配慮したまちづくりを進める必要があります。



■ かわさき観光振興プランなどによる川崎のありのままの魅力に光をあて、住む人・訪れる人が共に楽しい“川崎らしい観光”的推進

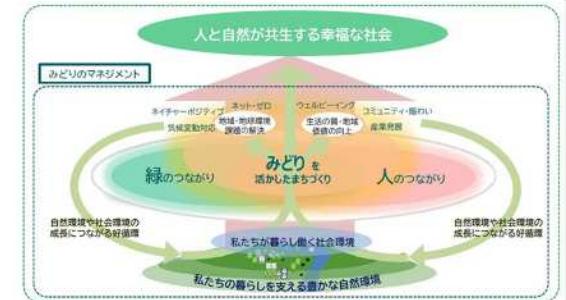


観光を本市の活力創出・地域経済の基盤強化・市民の川崎への愛着・誇り(シビックプライド)の醸成に資する基幹施策として位置づけ、市民・事業者等との共創による「川崎らしい観光」の確立を目指していきます。

■ 社会環境の変化等のキーワード



前回改定時からの主な状況変化



[自然と都市が共に成長する持続可能な好循環 イメージ図]



[自動運転バス(川崎市資料)]



[川崎新アリーナシティ・プロジェクト
提供:(株)ディー・エヌ・エー]

2 駅周辺のまちづくりの状況

(3) 駅周辺のまちづくりの状況

平成28(2016)年の計画改定から約10年が経過する中で、駅周辺のまちづくりの状況に新たな動きなどが出てきています。

■①新たな開発動向への対応

大型複合施設(KAWASAKI DELTA)や文化・スポーツ施設(カワサキ文化公園、SUPERNOVA KAWASAKI)などが整備され、さまざまな都市機能の集積が進んでいます。このような中で、「川崎新！アリーナシティ・プロジェクト」や京急川崎駅西口地区第一種市街地再開発などの新たな開発計画が公表されたことから、これらの機会を最大限に活かし、引き続き、都市の魅力発信と利便性を高めながら、賑わいを創出するまちづくりが必要です。

<川崎新！アリーナシティ・プロジェクト> <京急川崎駅西口地区第一種市街地再開発>



[提供:株式会社エヌ・エー]



[川崎市資料]

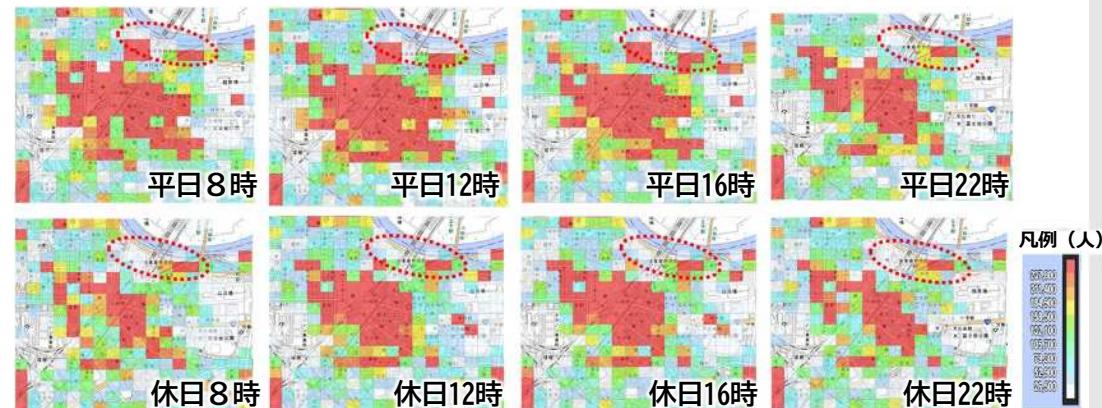
■②護岸整備とあわせた河川活用

川崎駅周辺の多摩川河川敷は、駅至近に位置するものの、そのポテンシャルを活かしきれておらず、多摩川河川敷の滞留人口は、全時間帯で低く、まちとかわの連携による新たな賑わいの創出や回遊性の向上に向け、国の護岸整備の機会を捉えたアクセス性の高い動線や、多摩川などの自然を活かした空間づくりが必要です。

<低水護岸整備の進捗状況>



<川崎駅周辺の時間帯ごとの滞留人口分布(令和6(2024)年)>



[出典:RESAS地域経済分析システムより川崎市作成]

■③公共空間の更なる活用

国のウォーカブル推進の考え方を踏まえ、地域の住民や事業者など官民が連携した公共空間の活用に向けた取組を継続し、安全で快適な歩行空間やベンチ・緑化・電源など滞留を促す空間を充実させることで、賑わいと居心地の良い都市環境を整備することが必要です。

<ルフロン前広場>



<川崎駅北口通路LEDビジョン>



<みんなの川崎祭>



<稻毛公園カンパイビアデイ>



[すべて川崎市資料]

2 駅周辺のまちづくりの状況

(3) 駅周辺のまちづくりの状況

④地域資源の活用

旧東海道や若者文化のアートなど多様な地域資源を活かし、歴史や文化を感じながら歩いて楽しめる空間を整備し、インバウンド対応を含めたウォーカブルな都市環境の整備を進めることができます。

<東海道の歴史と文化を活かした取組>



<ウォールアート>
<かわさきミューラルアートさんぽ
(デジタルスタンプラリー)>

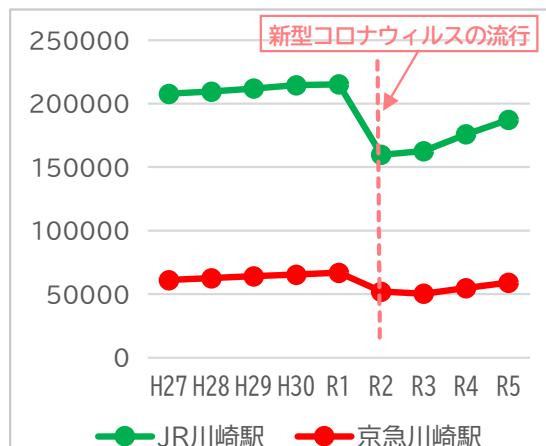


[すべて川崎市資料]

⑤アフターコロナを踏まえた社会変容への対応

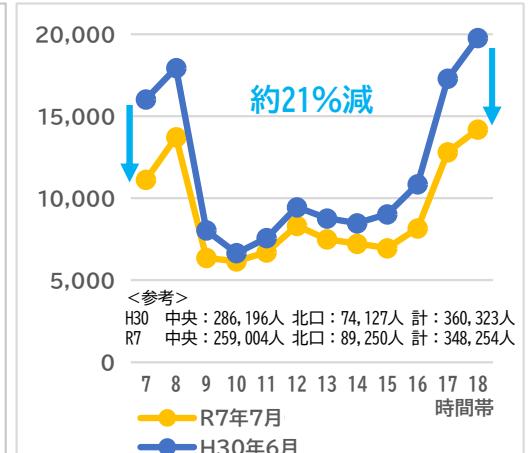
JR川崎駅・京急川崎駅の乗車人員は回復傾向にはあるものの、以前の水準には戻っていません。また、テレワークやオフピーク通勤などの働き方の多様化により、交通量の平準化が図られつつあります。こうした変化を踏まえ、新しいライフスタイルに対応した持続可能なまちづくりが必要です。

<川崎駅の乗車人員（1日平均）>



[出典：川崎市統計書]

<交通量調査結果の比較>
(川崎駅中央通路)



[出典：R7年7月・H30年6月実施交通量調査結果]

⑥交通環境の整備

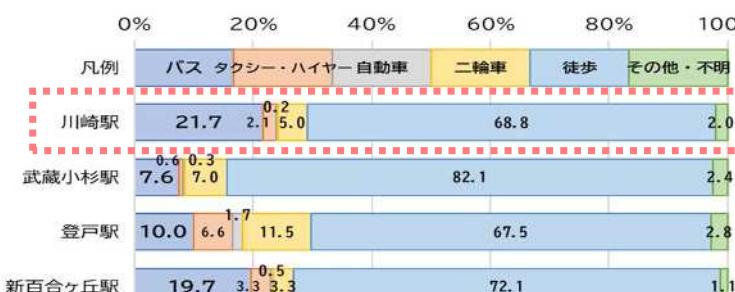
バス運転手不足が深刻化しているなど、公共交通を取り巻く社会環境の変化に対応するため、電車・バス・自転車など多様な手段を活用しやすく誰もが移動しやすい交通環境を整えることが必要です。

<自動運転バス>



[川崎市資料]

<市内主要駅における端末交通手段の割合>



[出典：川崎市統計書及びパーソントリップ調査]



[出典：国交省資料]

2 駅周辺のまちづくりの状況

(4) 市民意見等の把握

本計画の改定にあたり、より魅力ある広域拠点の形成に向けて、専門的な知見を有する学識経験者へのヒアリングを行うとともに、市民ニーズの把握のために、駅周辺で開催されたイベントの機会にあわせて実施したシール投票や、川崎駅周辺の町内会・自治会、商業関係団体等へのアンケート調査を行いました。これらの内容も参考にしながら、計画改定にあたっての主な視点を整理しました。

概要

① 「学識経験者」へのヒアリング

実施時期：令和7年5月・10月/2人

② 「川崎駅周辺の町内会・自治会」へのアンケート調査

実施時期：令和7年11月～12月

対象：川崎駅周辺の川崎区内・幸区内の町内会

※JR川崎駅から半径1km以内の町内会・自治会を対象として実施

③ 「川崎駅周辺の商業関係団体」へのアンケート調査

実施時期：令和7年12月

対象：川崎駅広域商店街連合会、幸商店街連合会、十店会、

川崎商工会議所

④ 「みんなの川崎祭」でのシール投票

実施時期：令和7年11月2日（日）/回答：約450人

④ 「水曜ナイトライブ in LAZONA」でのシール投票

実施時期：令和7年11月12日（水）/回答：約100人

⑤ 「LoGoフォーム」を活用した市民等へのアンケート調査

実施時期：令和7年12月～令和8年1月

① 学識経験者

まちづくり分野に精通し、施策検討に必要な視座を持ち、これまで当初計画策定時（平成18（2006）年）や改定（平成28（2016）年）にあたり有識者として意見をいただいてきた経過を踏まえ、川崎駅周辺に最も精通している有識者（2名）に、ヒアリングを実施しました。

▼東京科学大学 中井 檜裕 名誉教授

- ・新たなモビリティのあり方や走行空間について、検討したほうがよい
- ・新たなモビリティ等の導入状況を踏まえた交通環境のあり方を検討したほうがよい
- ・地域の担い手づくりについては、当面は都市再生推進法人化を目標とすべき。アリーナの機会を捉えるなど、民間に公共貢献を検討してもらい、民の力をまちづくりに活用すべき。行政先導から民間活力活用へシフトすべき

▼早稲田大学 理工学術院創造理工学部・研究科 有賀 隆 教授

- ・河川敷のオープンスペースは、非常に貴重な空間資源であり、川崎は、駅直近に河川敷があるため、具体的にどのような動線で効的にまちとかわを繋げるかという部分は重要なキーワードであり、多摩川とまちの連携について整備計画に盛り込むことは良い
- ・JR川崎駅、京急川崎駅周辺エリアにおいて公共的なオープンスペースが不足している。再開発事業と連携した一体的な質の高いオープンスペースの創出が重要

2 駅周辺のまちづくりの状況

(4) 市民意見等の把握

②市民意見(町内会・自治会等)

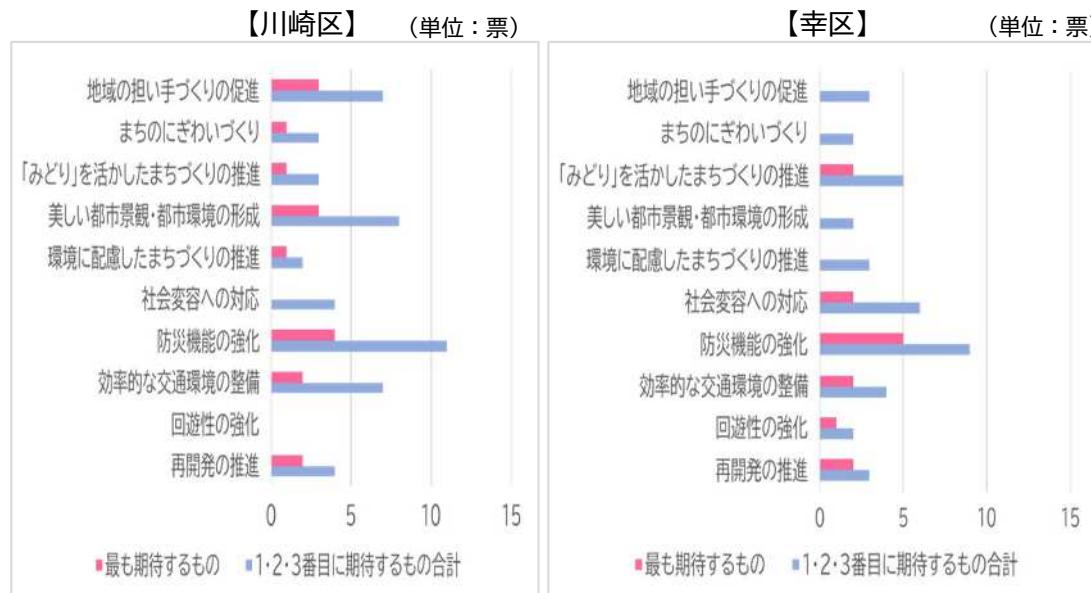
○川崎区連合町内会

- すべての歩行者が安全、快適に駅の東西を往来できるようにするとともに、駅周辺の魅力や利便性の向上、ひいてはJR川崎駅東口の活性化につながるよう、引き続き川崎駅南口改札の新設等による駅周辺地区の更なる回遊性の向上を要望いたします。
- 新アリーナでの試合やイベント等の開催時には、多くの来場者が見込まれ、周辺地域、住民の安全確保が大きな課題だと考えています。地元地域が安全で活気のあるまちとするためにも、着実な安全確保策等を要望いたします。

②「川崎駅周辺の町内会・自治会」へのアンケート調査(川崎区・幸区)

【アンケート内容】

- 「川崎駅周辺の今後のまちづくり」に期待することについて



○幸区連合町内会

- 周辺の大規模事業所においては、従業員の通勤をJR川崎駅と尻手駅に振り分けるなど駅の混雑緩和に向けた取組を行っているところですが、抜本的な対策となる川崎駅南口改札の設置が必要となっています。
- すべての歩行者が安全に往来できるよう、「川崎駅周辺総合整備計画」で平成30年度からの取組とされている「JR川崎駅南口改札の必要性に関する調査・検討」を推進の上、早期に川崎駅南口改札を設置していただくよう引き続き要望します。

【主な意見】

再開発の推進

- 京急川崎駅周辺ではアリーナや再開発等が進んでおり、今後のまちの変化が楽しみである
- 京急川崎駅周辺のまちづくりに期待

効率的な交通環境の整備

- 幸区から本庁舎等の東口方面へ行くのが、高齢者にとっては大変不便な状況のため、より効率的で利用しやすい交通手段の整備に期待

まちのにぎわいづくり

- 川崎駅周辺でたくさんのイベントが行われ、川崎のまちがにぎやかになることに期待

地域の担い手づくりの促進

- 民間活力を大いに活用して品格のある川崎駅周辺づくりに期待

社会変容への対応

- 増加傾向にある訪日外国人にもわかりやすい対応が求められていると思う
- 環境に配慮したまちづくりの推進

- 現在の異常気象の原因とされる、地球温暖化対策として環境配慮の視点は必要だと思う

「みどり」を活かしたまちづくりの推進

- みどりや花をもっと増やしてほしい

美しい都市景観・都市環境の形成

- 不法投棄、たばこの吸い殻・ガム等のポイ捨て等の啓発活動を行い、川崎の玄関口にふさわしいきれいなまちづくりを期待

防災機能の強化

- 風水害に対する安全なまちづくりに期待、避難所が不足しているように感じる

2 駅周辺のまちづくりの状況

(4) 市民意見等の把握

③商業関係団体

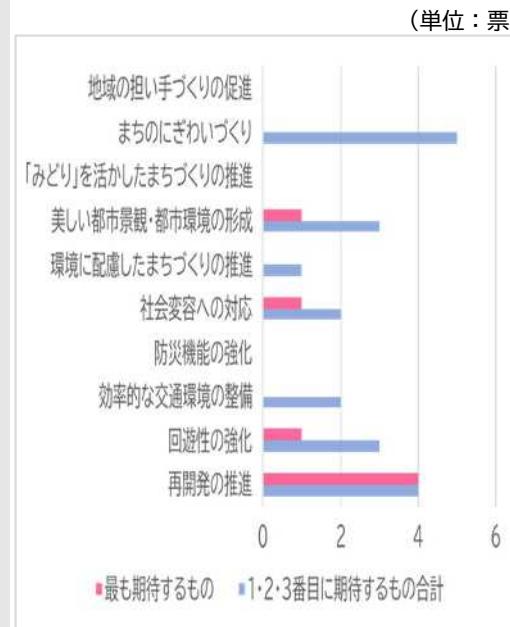
○「川崎駅周辺の商業関係団体」へのアンケート調査

【アンケート内容】

■ 「川崎駅周辺の今後のまちづくり」に期待することについて

【アンケート結果】

- ・ “再開発の推進” や “まちのにぎわいづくり” など、まちの活性化に期待する声が多い。



【主な意見】

再開発の推進

- ・ 京急川崎駅周辺地区の再開発により、商業ビルや新アリーナの建設が進むことで、地域の魅力が高まり、商業・交流機能の強化による経済活性化が期待される

まちのにぎわいづくり

- ・ 地域の事業者が主体的にまちづくりに参画し、来訪者の視点を踏まえた取組を進めることで、川崎ならではの魅力を発信し、まちのにぎわいを創出していくことが重要だと考える
- ・ 音楽やスポーツも楽しめる街である点が川崎の魅力だと思う

回遊性の強化

- ・ 車だけではなく、住民・歩行者にも道路を一部開放する機会を作ることで、地域の利用価値を高め、インバウンド客にも賑わいを共有できる

④市民意見(多様な意見聴取)

(1) 「みんなの川崎祭」でのシール投票

回答人数：約450人

(2) 「水曜ナイトライブinLAZONA」でのシール投票

回答人数：約100人

【アンケート内容】

■ 「川崎駅周辺の今後のまちづくり」に期待することについて

【アンケート結果】

- ・ “再開発の推進”、“交通環境”、“にぎわい”、“景観・自然”に期待する声が多く、開発等が進むことで生まれる賑わいや多摩川等の地域資源を活かしたまちづくりに期待を寄せられている。

【みんなの川崎祭】(単位：票)



【水曜ナイトライブ】(単位：票)

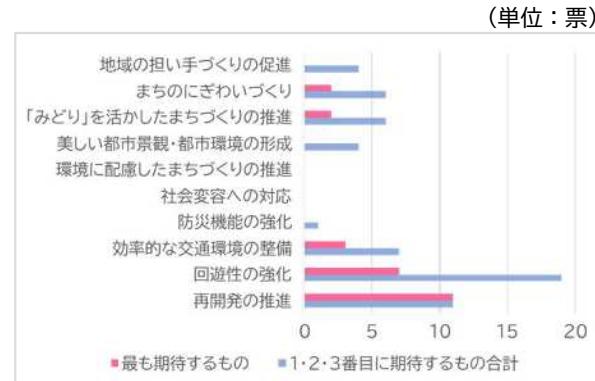


2 駅周辺のまちづくりの状況

(4) 市民意見等の把握

⑤市民意見(多様な意見聴取)

- 「LoGoフォーム」を活用した市民等へのアンケート調査



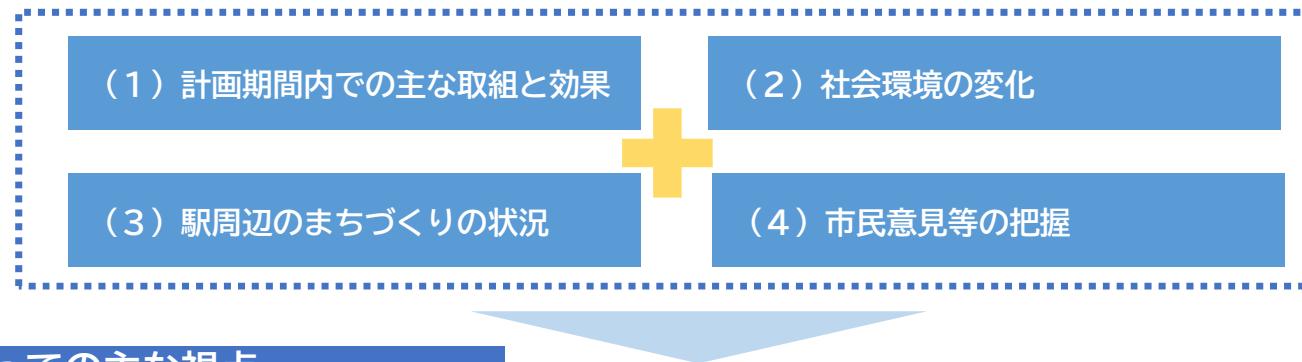
【主な意見】

再開発の推進

- 京急川崎駅西口周辺はいつも人が少ないと感じる。再開発が完了すれば、人の流れも増えて、商店の商売も良くなるのではないか
まちの担い手づくり
- まちなかの点と点を繋ぎ、エリアを面的にプランディングしていくプレイヤー（地域の担い手）の必要性を感じる

(5) 計画改定にあたっての主な視点

計画期間内でのこれまでの取組の検証を行うとともに、社会環境の変化や駅周辺のまちづくりの状況を踏まえ、市民意見等の把握を行うことで、計画改定にあたっての主な視点を整理しました。



計画改定にあたっての主な視点

A 多様な都市機能集積と
まち全体の回遊性の向上

B 多摩川河川敷等の「みどり」の
活用と市街地との連携

C 道路・公園等、公共空間の
有効活用

D 旧東海道等の地域資源を活用した
ウォーカブルなまちづくり

E まちづくりの担い手となる
エリアマネジメントの組成

F BRT・自動運転などの
新たな技術への対応

3 目指す市街地像・まちづくりの基本方針と基本施策等

(1) 基本方針・基本施策等の体系

目指す
市街地像

本市の玄関口にふさわしい多様な魅力と活力にあふれたまち 川崎
～官民連携による更なる成長を支える「核」づくりとまちを支える「人」づくりを通じた持続可能なまちを目指して～

まちづくりの基本方針

①魅力と活力ある広域拠点の形成

②地区内を往来しやすい
ウォーカブルなまちづくり

③安全・安心に過ごせるまちづくり

④人と環境にやさしく「みどり」を
活かした持続可能なまちづくり

⑤個性的で賑わいのある
まちづくり

⑥市民協働・**共創**のまちづくり

改定にあたっての主な視点等を
踏まえて概ね継承

まちづくりの基本施策

1 再開発の推進

- (1)魅力と活力を高める多様な都市機能の誘導集積
- (2)駅前等の施設などの機能更新と高度利用

2 回遊性の強化

- (3)まちの一体的な回遊性の強化
- (4)東海道の歴史と文化を活かしたまちづくりの推進
- (5)誰もが安全・安心に通行でき、居心地のよく歩いて楽しいウォーカブルな環境の整備

3 利用しやすい交通環境の形成

- (6)交通環境の整備
- (7)荷さばき対策の推進
- (8)自転車や新たな交通モードと歩行者が安全に通行できる環境の整備

4 防災機能の強化

- (9)帰宅困難者対策等の推進
- (10)密集市街地の改善
- (11)空きビル等の改善

5 **社会変容**への対応
(少子高齢化・グローバル化等)

- (12)ユニバーサルデザインの推進
- (13)国際化を見据えた都市拠点の形成
- (14)多言語による案内・情報発信の充実

6 環境に配慮したまちづくりの推進

- (15)脱炭素社会を目指したまちづくりの推進
- (16)DX等を活用した持続可能なまちづくりの推進

7 美しい都市景観・都市環境の形成

- (17)駅周辺の環境美化の推進
- (18)地域資源等を活かした広域拠点にふさわしい健全な街なみづくり

8 「みどり」を活かしたまちづくり
の推進

- (19)まちの価値向上につながる「みどり」空間整備・活用
- (20)多摩川の自然、公園、民有緑地など、生物多様性、緑のつながりに配慮したまちづくり

9 まちの賑わいづくりの推進

- (21)既存ストックを活用した賑わいの創出
- (22)賑わいと活力に満ちた身近な商店街の形成
- (23)まちづくりと連携した多様な分野の融合による大規模イベントの開催

10 地域の担い手づくりの促進

- (24)エリアマネジメント団体の組成による持続可能なエリア価値の維持・向上

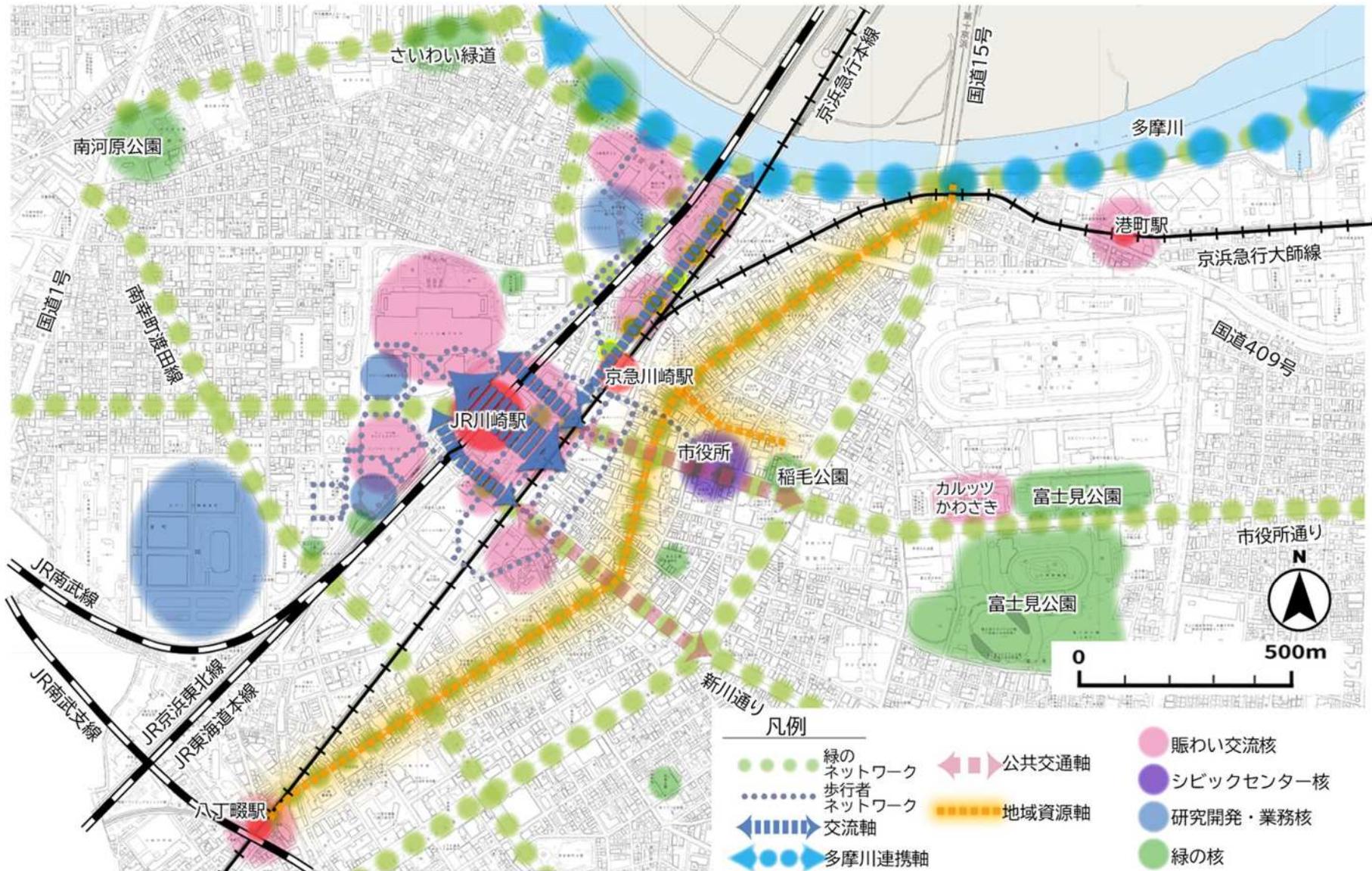
反映

反映

改定にあたっての主な視点等を踏まえて一部変更

3 目指す市街地像・まちづくりの基本方針と基本施策等

(2) ゾーニング図



3 目指す市街地像・まちづくりの基本方針と基本施策等

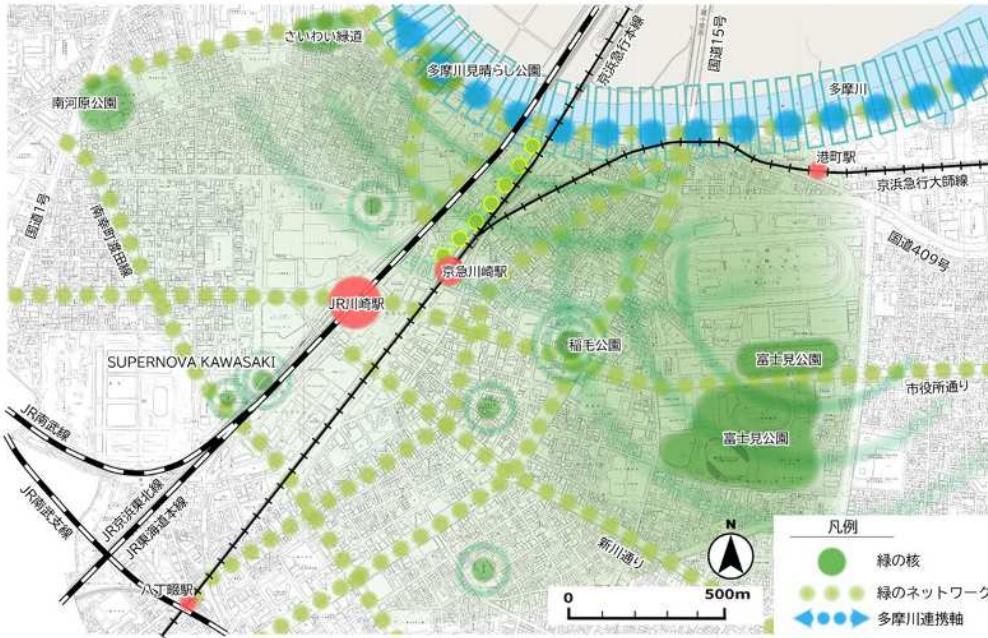
(2) ゾーニング図

主な構成要素

■主な構成要素(みどり)

- 川崎駅周辺に存在する自然資源である多摩川や富士見公園などの公園や、街路樹等の既存の緑との繋がりに配慮し、生物多様性の増進や緑の核・軸とのつながりを活かした良好な都市環境を形成し、多摩川の水辺環境を軸に、まちなかへと緑のつながりを広げていきます。
- 公園緑地、オープンスペースでの市民等の協働・共創の取組を通じて、未来につながるグリーンコミュニティの形成を図ります。

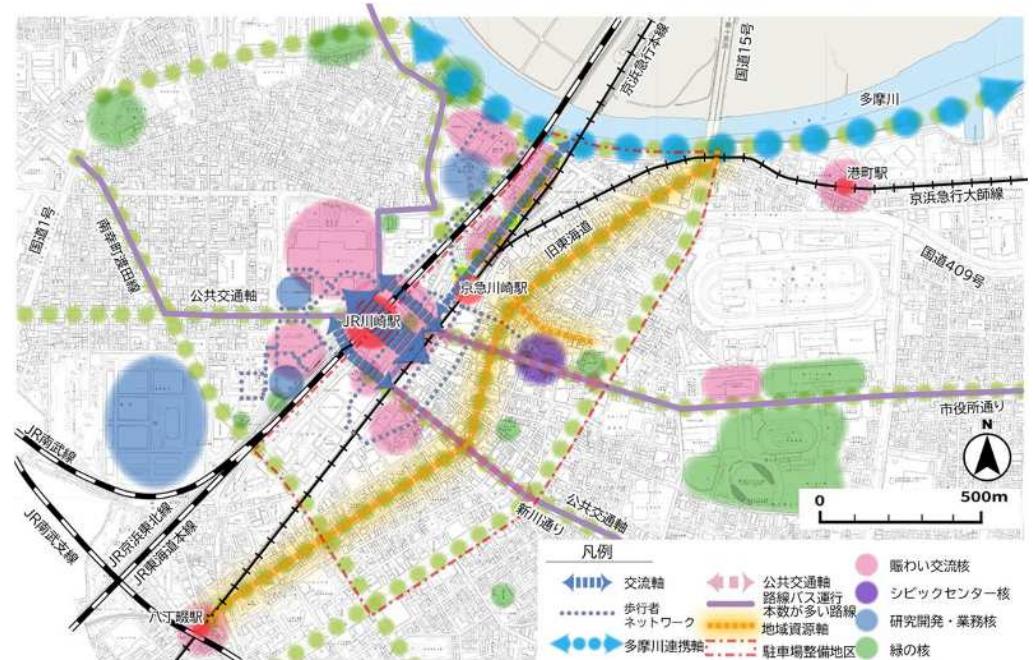
<主な構成要素(みどり)>



■主な構成要素(歩行者空間、道路空間)

- 駐車場整備地区内の公共交通軸を中心に路上駐車対策等を行うことで、公共交通の利便性・速達性の向上を図ります。
- 既存デッキや地下空間等を活用し、基盤再編等の機会を捉えて、快適な歩行者空間の形成に取り組みます。
- 多摩川や緑道等の自然資源を活用しながら、駅東西から多摩川へのアクセス動線を確保します。

<主な構成要素(交通ネットワーク)>



3 目指す市街地像・まちづくりの基本方針と基本施策等

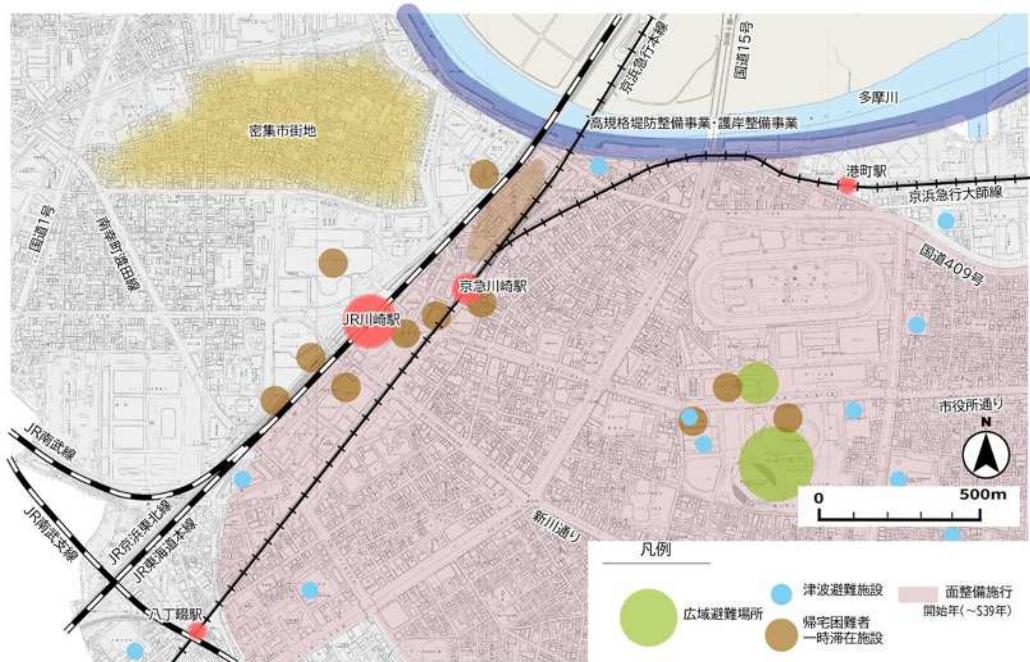
(2) ゾーニング図

主な構成要素

■主な構成要素(防災)

- 川崎駅周辺には、帰宅困難者一時滞在施設等が点在しており、発災時における適切な避難誘導が求められるとともに、民間事業者を含めた滞在者の安全確保や混乱の抑制に向けた取組を推進します。
- 駅周辺では、過去の戦災復興区画整理事業から時間が経過しており、低未利用地の点在も散見されることから、建物更新などの期間を捉えて防災資源としての活用も視野に入れた取組を推進します。

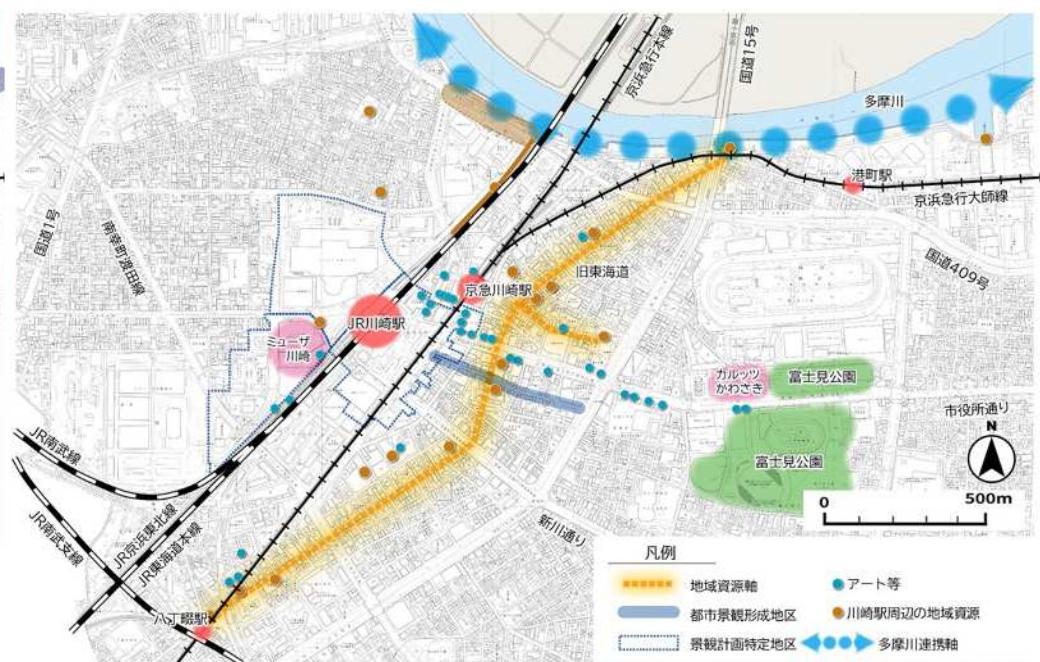
<主な構成要素(防災)>



■主な構成要素(地域資源)

- 川崎駅周辺には、多摩川や東海道川崎宿など、本市を代表する地域資源が点在するとともに、若者文化であるミューラルアートの蓄積も進み、観光や写真撮影スポットが点在しており、これらの地域資源を活かした地域の魅力を発信する取組や、当該資源を含めた公共空間を有効に活用し、新たな魅力につながる取組を推進します。

<主な構成要素(地域資源)>



4 計画期間の取組等

1 再開発の推進

川崎駅周辺では、民間活力を活かし商業・業務・文化・交流・都市型住宅等の多様な都市機能をバランス良く整備しています。今後予定されている京急川崎駅西口地区での民間開発に際しては、これまでの西口地区で進めてきた大規模な土地利用転換や、東口駅前広場の再編整備といった取組の効果と連携し、更なる都市機能の集積を図ります。

今後、京急川崎駅周辺など未開発エリアのポテンシャルを官民連携により最大限に引き出すとともに、多様な都市機能が集積した都市拠点の形成を推進し、本市の玄関口にふさわしい魅力と活力あふれた安全・安心な広域拠点として、質の高いまちづくりを計画的に進めます。



▲川崎新！アリーナシティ・プロジェクト
[提供:株式会社ディー・エヌ・エー]



▲京急川崎駅西口地区
第一種市街地再開発事業 [川崎市資料]



▲カワサキ文化公園
[川崎市資料]



▲既存ストック活用事例
[川崎市資料]

施策課題	計画期間の取組	当初4か年の主な取組内容(R8~R11)
(1)魅力と活力を高める多様な都市機能の誘導集積	・民間活力を活かしたまちづくりを計画的に誘導します。	<ul style="list-style-type: none">京急川崎駅西口地区、川崎駅東口駅前地区等の民間開発の誘導川崎新！アリーナシティ・プロジェクトの推進カワサキ文化公園を活用したまちづくりの推進河川敷活用を見据えた活動拠点の誘導
(2)駅前等の施設などの機能更新と高度利用	・駅前地区等の高経年施設などの機能更新の機会を捉え、土地の高度利用と都市機能の集積を推進します。	<ul style="list-style-type: none">京急川崎駅西口地区、川崎駅東口駅前地区等の民間開発の誘導テクノピア地区の民間開発の誘導京急川崎駅西口地区第一種市街地再開発事業の事業着手
	・東口周辺での既存ストックを活かしたまちの再生を図ります。	<ul style="list-style-type: none">インバウンドビジネス等推進事業補助金を活用した建物更新等の支援

4 計画期間の取組等

2 回遊性の強化

多様な商業機能の集積や、えき・まち・みち・かわが一体となりまちの利便性や回遊性を高め、居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりを推進します。また、旧東海道など地域の歴史・文化資源や多摩川などの自然との連携を活かした、新たなまちの魅力を創造・発信するなど、地域住民等とともに、地域への愛着を持てる魅力あるまちづくりを推進します。

さらに、引き続き、客引き行為等の防止に向けた取組、路上違反広告物等の除却指導、防犯カメラ設置支援等の継続的な実施などにより、誰もが安全・安心で快適な通行環境の構築を図ります。



▲歩行者専用道路を活用した社会実験



▲東海道川崎宿まつり



▲ウォールアート

[すべて川崎市資料]

施策課題	計画期間の取組	当初4か年の主な取組内容(R8~R11)
(3)まちの一体的な回遊性の強化	<ul style="list-style-type: none">駅周辺や公共空間も含めた周辺地区と多摩川等がつながることで、えき・まち・みち・かわが一体となった回遊性の強化を図ります。	<ul style="list-style-type: none">多摩川アプローチデッキの整備民間開発事業(川崎新!アリーナシティ・プロジェクト、テクノピア地区)による通路等の整備JR川崎駅南口改札の必要性に関する調査・検討京急川崎駅東西の回遊性強化に関する調査・検討多摩川河川敷の歩行空間の検討・整備(六郷の渡し～多摩川見晴らし公園)市役所から京急川崎駅をつなぐ京急通りの道路空間のあり方に関する調査・検討さまざまなイベント等を通じた地下街アゼリアの賑わいの充実
(4)東海道の歴史と文化を活かしたまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none">地域の住民や商業者の主体的な取組と連携しながら、歴史・文化資源を活かし、旧東海道や六郷の渡し場跡等と駅周辺の回遊性に富む魅力あるまちづくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none">東海道かわさき宿交流館を拠点とした歴史・文化を活かしたまちづくりの推進民間企業や商店街の協力による江戸風意匠の街なみの推進「東海道川崎宿まつり」、「東海道川崎宿スタンプラリー」による賑わいの創出

4 計画期間の取組等

2 回遊性の強化

施策課題	計画期間の取組	当初4か年の主な取組内容(R8~R11)
(5)誰もが安全・安心に通行でき、居心地のよく歩いて楽しいウォーカブルな環境の整備	<ul style="list-style-type: none">車道から歩道への転換や、民間空地等の活用により、みどり・インフラ等を配置しながらより使いやすく居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまちづくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none">歩道状空地の整備促進再開発事業区域内の地区内道路の整備再開発等の機会を捉えた無電柱化の推進歩道のバリアフリー化に向けた検討・整備歩行者専用道路(駅前本町線等(アリーナ参道等))の整備
	<ul style="list-style-type: none">客引き行為等の防止に向けた取組、路上違反広告物等の撤去指導、防犯カメラ設置支援等を行うことで誰もが安全で快適な通行環境の構築を図ります。	<ul style="list-style-type: none">客引き行為等防止指導員の巡回活動による指導・啓発等の実施や、警察・商店街等他機関との連携による広報・啓発活動路上違反広告物等の除却指導路上はみ出し陳列対策の実施商店街路灯のLED化等の工コ化の実施商店街への防犯カメラ設置補助
	<ul style="list-style-type: none">若者文化のアート等を活用した歩いて楽しいまちづくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none">民間事業者による駅周辺でのアート制作に対する支援

コラム

- 「まち」と「かわ」を賑わいでつなぐイベント「DISCOVER KAWASAKI 2024」
- ✓ 現状のただ通り過ぎるだけの道を脱却し、「滞留したくなる空間」と「交流・賑わいの創出」により、公共空間の質向上と地域の回遊性促進に繋げることを目的に実施しました



[すべて川崎市資料]

- 地域資源「東海道・川崎宿」を活かしたまちづくり
- ✓ 旧東海道の歴史資源を活かした街なみの形成やイベントなどの取組を地域住民との協働により実施しています



[東海道川崎宿HP、川崎市資料]

- 若者文化のアート等を活用したまちづくり
- ✓ 回遊することが楽しく、居心地が良く歩きたくなる空間づくりに資するよう、川崎駅周辺の公共空間の中にアート資源を広げる取組を推進しています

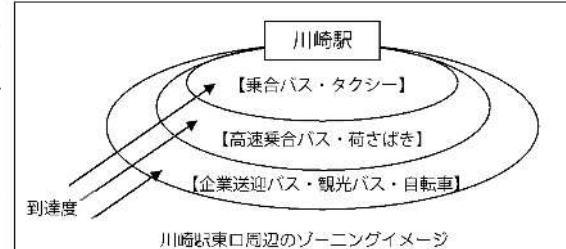


[すべて川崎市資料]

4 計画期間の取組等

3 利用しやすい交通環境の形成

川崎駅周辺地区については、本市を代表する広域拠点の玄関口として、新たな交通環境への対応など多様なニーズに対応するため、限られた空間を有効活用し交通環境の改善を図る必要があります。特に東口周辺に関しては、バス運転手等の担い手不足への対応と、環境負荷の低減を念頭に置きながら、駅への到達優先度に合わせて、利用者に分かりやすい交通手段ごとのゾーニングを行なうことにより多様な交通手段が共存できる環境を整えます。



▲自動運転バス

[すべて川崎市資料]

施策課題	計画期間の取組	当初4か年の主な取組内容(R8~R11)
(6)交通環境の整備	<ul style="list-style-type: none">道路交通の円滑化等に向けた市役所通りや新川通り等のバスレーン機能の確保を推進します。交通需要等に応じた路線バス等の交通環境の整備を推進します。	<ul style="list-style-type: none">JR川崎駅東口バス島内の利用環境の調整やBRT等に対応した改良の検討・推進BRTや自動運転バスの走行性向上に向けた対策の検討・推進観光バス等発着スペースの検討タクシー等の路上駐車の防止に向けた取組検討 <ul style="list-style-type: none">公共交通の利用動向に合わせたダイヤ改正の検討・実施公共交通の利用促進
(7)荷さばき対策の推進	<ul style="list-style-type: none">民間駐車場等を活用した駐車場マネジメントによる荷さばき対策を推進します。	<ul style="list-style-type: none">共同荷さばき場等の確保に向けた実証実験の実施共同配送の実施に向けた実証実験の実施
(8)自転車や新たな交通モードと歩行者が安全に通行できる環境の整備	<ul style="list-style-type: none">道路を利用するすべての方々の安全・安心で快適な利用環境構築に向け、川崎市自転車活用推進計画に基づく自転車施策の総合的な取組や多様なモビリティへの対応を推進します。	<ul style="list-style-type: none">放置自転車の撤去、駐輪場への誘導押し歩きエリアなど川崎駅周辺での啓発活動の実施自転車マナーアップ指導員による巡回活動の実施シェアサイクルの本格運用の継続多様なモビリティへの対応

4 計画期間の取組等

4 防災機能の強化

東日本大震災などの教訓に加え、近年激甚化する風水害などへの対応が求められる中、大規模地震や多様な災害に対して、的確な対策を進めていく必要があります。

広域的な都市拠点としての防災機能の強化や、老朽建物の更新・改修を推進するとともに、駅周辺の関係者間の密接な連携による災害対応力の強化を図り、都市の安全性を確保することで、川崎駅周辺地区の魅力と価値の向上を目指します。また、災害時には、駅周辺に整備されたデジタルサイネージ等のICTを活用し誰にでもわかりやすい情報発信を行うなど、誰もが安心して暮らせるよう、都市全体の安全性の向上を図り、大規模災害にも対応できる強靭なまちづくりを進めます。



[川崎市資料]

▲デジタルサイネージを活用した災害情報の発信

施策課題	計画期間の取組	当初4か年の主な取組内容(R8~R11)
(9)帰宅困難者対策等の推進	<ul style="list-style-type: none">一斉帰宅の抑制の周知や帰宅困難者一時滞在施設の確保等を行い、災害時における混乱の抑制や二次災害を防止するとともに、各種対策を推進します。「川崎駅周辺の災害時における行動ルール」に基づく帰宅困難者対策訓練を継続的に実施し、帰宅困難者への対応方法の確立と向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none">一時滞在施設の更なる確保と地下街アゼリア等一時滞在施設の機能充実帰宅困難者用物資の配備・管理「川崎駅周辺の災害時における行動ルール」に基づく帰宅困難者対策の啓発・訓練の実施デジタルサイネージや総合防災情報システム等のICTを活用した情報発信の検討・推進民間開発の機会を捉えた帰宅困難者受入施設の拡充民間のアクセスポイントや接続アプリを活用した、かわさきWi-Fiの利便性向上や利用促進に向けた取組の実施
(10)密集市街地の改善	<ul style="list-style-type: none">老朽木造住宅等が密集した市街地の防災上の改善に取り組み、地震発生時等の火災による延焼被害の低減を推進します。	<ul style="list-style-type: none">不燃化重点対策地区(幸町周辺地区)における燃え広がりにくいまちづくりの推進
(11)空きビル等の改善	<ul style="list-style-type: none">空きビル等の増加や建物の管理不全化に伴い周辺環境への影響や地域の活力低下への対応に向けた取組を推進します。	<ul style="list-style-type: none">空きビル等の遊休不動産への適切な対応(例:防災空地／荷さばき借上げ)空きビル等の既存ストックの活用(インバウンドビジネス等推進事業補助金要綱の改正)

4 計画期間の取組等

5 社会変容への対応（少子高齢化・グローバル化等）

少子高齢化やグローバル化の進展により、高齢者や子育て世代、子どもや若者、障害者、訪日外国人など、全ての人にやさしいまちづくりが求められています。ホームドアの設置の推進等、誰もが安心・安全に移動できるバリアフリーやユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを推進します。

また、増加傾向にある訪日外国人にも配慮した多言語表示の充実などにより、誰もが利用しやすく訪れるなくなるまちづくりを推進し都市イメージの向上を図ります。



▲ホームドア



▲アゼリア
点字ブロック

施策課題

計画期間の取組

当初4か年の主な取組内容(R8~R11)

(12)ユニバーサルデザインの推進	<ul style="list-style-type: none">・バリアフリー基本構想に基づき、バリアフリー化の整備・促進を図ります。・誰もがわかりやすい公共サイン整備に関するガイドラインによる誰もが利用しやすいまちづくりを推進します。・鉄道駅における安全性・利便性等の向上などを進め、高齢者や障害者など誰もが安全・安心に利用できる交通環境の形成を図ります。	<ul style="list-style-type: none">・生活関連経路等のバリアフリー化の整備・促進・誰もが訪れやすく暮らしやすいユニバーサルデザインのまちに向けた取組の推進・誰もがわかりやすい公共サインの整備・京急大師線等のホームドア整備に向けた取組
(13)国際化を見据えた都市拠点の形成	<ul style="list-style-type: none">・訪日外国人の増加などを見据え、駅を中心に情報発信や観光案内の充実等の取組を進めるとともに、誘客を促進します。	<ul style="list-style-type: none">・北口通路の観光案内所の有効活用・訪日外国人を対象とする観光コンテンツの造成と販売・民間開発の誘導(川崎アリーナシティ・プロジェクト、川崎駅東口駅前地区、京急川崎駅周辺地区)・宿泊施設の誘導・整備・SNS等でのシェアサイクルなど手軽な移動手段の広報・インバウンドを視野に入れた川崎のナイトタイムエコノミー"ヨルカワ"の推進
(14)多言語による案内・情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none">・訪日外国人の増加などを見据え、多言語による案内サインや戦略的な情報発信等により、都市イメージの向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none">・北口通路における行政サービス施設や壁面等を活用した観光案内、魅力の発信・北口通路における壁面広告及びLEDビジョン運用の実施・海外の旅行会社等に対するセールス・プロモーションの実施・SNSや観光ホームページの多言語化など情報発信の充実・多言語ガイドブックやマップ等の情報発信ツールの充実の推進・誰もがわかりやすい多言語表記の促進

4 計画期間の取組等

6 環境に配慮したまちづくりの推進

2050年の脱炭素社会の実現に向けて、ICTや最先端の技術を活用した環境に配慮した都市づくりが求められています。「川崎市地球温暖化対策推進基本計画」に基づき、住まい、交通、エネルギーなどの社会インフラなどにおいて、脱炭素社会を目指した再エネの普及促進や環境技術の導入、DX等を活用した持続可能なまちづくりの推進など、地球環境に配慮した持続可能なまちづくりを推進します。



▲かわさきゼロカーボンロゴ



▲川崎駅東口駅前広場(太陽光発電等)

[すべて川崎市資料]

施策課題	計画期間の取組	当初4か年の主な取組内容(R8~R11)
(15)脱炭素社会を目指したまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none">再エネ・省エネ機器等の導入促進に向けた取組や関連情報の発信等を通じ、脱炭素社会を目指したまちづくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none">太陽光発電設備・省エネ機器等の導入促進やエネルギー利用最適化に向けた普及啓発の充実開発事業等における民間事業者と連携した脱炭素化の取組への誘導・促進
(16)DX等を活用した持続可能なまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none">官民の更なる連携により、テクノロジー等も活用しながら先駆的で持続可能な取組を推進します。	<ul style="list-style-type: none">官民連携による持続可能なまちづくりに向けた取組の推進
	<ul style="list-style-type: none">ICT・データの利活用により、誰もが豊かさを享受する持続可能な社会の実現に向けた取組を推進します。	<ul style="list-style-type: none">かわさきWi-Fiの利便性の向上に向けた取組の実施民間のアクセスポイントや接続アプリを活用した、かわさきWi-Fiの利用促進に向けた取組の実施

4 計画期間の取組等

7 美しい都市景観・都市環境の形成

駅周辺ではさまざまな人が行き交うことから、マナー向上に向けた取組を進めるとともに、市民・事業者・行政との協働により、東海道の歴史や多摩川の自然等の地域資源を活かした魅力と活力あふれる街なみづくりに取り組みます。

また、川崎新！アリーナシティプロジェクトを契機とした川崎のシンボルとなるような空間の検討・整備を進め、「川崎らしさ」を感じられるまちづくりを推進します。



▲路上喫煙防止指導員による巡回活動



▲旧東海道のまちなみづくり
[すべて川崎市資料]

施策課題	計画期間の取組	当初4か年の主な取組内容(R8~R11)
(17)駅周辺の環境美化の推進	<ul style="list-style-type: none">路上等での喫煙防止やポイ捨て防止の啓発活動、注意・指導などを継続的に実施するとともに、川崎市客引き行為等の防止に関する条例に基づく取組等を推進します。	<ul style="list-style-type: none">喫煙者のマナー向上に向けた効果的な広報・啓発、適切な分煙環境の充実の推進客引き行為等防止指導員の巡回活動による指導・啓発等の実施や、警察・商店街等他機関との連携による広報・啓発活動路上違反広告物等の除却指導
	<ul style="list-style-type: none">道路施設の美化に向けた取組などを進めます。	<ul style="list-style-type: none">落書き消し及びシール剥がしの実施ミューラルアート等の整備による落書きの抑制に向けた取組
	<ul style="list-style-type: none">ホームレスの自立支援について引き続き取組を推進します。	<ul style="list-style-type: none">ホームレス自立支援実施計画に基づく巡回相談・自立支援センター、アフターケア事業等の推進
(18)地域資源等を活かした広域拠点にふさわしい街なみづくり	<ul style="list-style-type: none">京急川崎駅周辺のまちづくりと連動した川崎の新しいシンボルとなる施設等の景観づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none">アリーナプロジェクトによる川崎のシンボルとなるような空間の検討・整備
	<ul style="list-style-type: none">川崎市景観計画に基づき、市民・事業者・行政との協働による個性と魅力ある景観づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none">景観計画特定地区、都市景観形成地区の方針・基準等に基づいた良好な景観の誘導「公共空間景観形成ガイドライン」に基づく道路・公園等の景観の誘導
	<ul style="list-style-type: none">東海道や多摩川などの景観資源を活かした景観づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none">旧東海道と稻毛神社をつなぐ道路における魅力的な街なみの形成に向けた取組「多摩川景観形成ガイドライン」や「東海道川崎宿まちなみづくりガイドライン」に基づく建築物等の景観の誘導歴史ある東海道の街なみを再構築し、魅力あふれるまちを目指す住民主体の取組の支援
	<ul style="list-style-type: none">川崎駅東口駅前地区地区計画に基づく民間開発を誘導します。	<ul style="list-style-type: none">川崎駅東口駅前地区地区計画に基づく民間開発の誘導

4 計画期間の取組等

8 「みどり」を活かしたまちづくりの推進

川崎駅周辺の幹線道路沿い、東口駅前広場や多摩川の緑は、潤いと安らぎをもたらす身近な緑であり、駅周辺の都市景観として定着しています。

富士見公園の再整備や「全国都市緑化かわさきフェア」を通じて育まれた市民協働による緑のまちづくりを継承し、個性と魅力にあふれた良好な都市景観の形成を推進します。

また、国土交通省が進める護岸整備とあわせて、民間活力を活かしながら豊かな自然を感じられる多摩川を活かした賑わいの場を創出するとともに、まちと水辺空間のネットワークを形成することで、回遊性・連続性の向上を図ります。

みどりを活かすことで、川崎駅周辺の生活の質の向上や地域価値の向上に取り組みます。



▲多摩川見晴らし公園



▲稻毛公園カンパイビアディ



▲富士見公園



▲協働の取組（富士見公園前）

[すべて川崎市資料]

施策課題	計画期間の取組	当初4か年の主な取組内容(R8~R11)
(19)まちの価値向上につながる「みどり」空間整備・活用	<ul style="list-style-type: none">・良好な都市景観や都市環境の形成に向けて、市民と協働するなどして都市緑化の推進に取り組むとともに、富士見公園の機能強化を図り、施設の再編整備を推進します。	<ul style="list-style-type: none">・街路樹の適正な維持管理の推進・富士見公園再編整備事業の推進（指定管理業務及び5期工事の実施等）・民間開発の機会を捉えたまとまり・つながりのある緑化空間の創出の促進（認定制度の活用）・稻毛公園等の利活用推進・西口ペデストリアンデッキに設置された花壇ベンチや、駅前の花壇など、緑化フェアを通じて始まった市民協働の取組の推進
(20)多摩川の自然、公園、民有緑地など、生物多様性、緑のつながりに配慮したまちづくり	<ul style="list-style-type: none">・まちと水辺空間の回遊性・連続性の向上を図り、多摩川を身近に感じられる憩い空間と多摩川への人の流れの創出を誘導します。・河川空間とまち空間が融合し、若者文化や東海道川崎宿などの川崎らしさを活かした個性的で賑わいあるまちづくりによるウェルビーイングの向上や地域活性化に資する良好な空間形成に取り組みます。・「新多摩川プラン」や「多摩川景観形成ガイドライン」などを踏まえ、多摩川の自然を活かした生物多様性豊かなまちづくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none">・まちと水辺緑化空間の回遊性・連続性の向上による多摩川との連携の創出に向けた検討・推進（多摩川見晴らし公園への民間活力導入等）・若者文化や東海道川崎宿など川崎らしさを活かした個性的で魅力的な「かわまちづくり計画」の検討・策定・国による多摩川護岸整備と連携した「かわまちづくり計画」に基づく、民間活力を活かした河川敷整備・活用の推進・多摩川景観形成ガイドラインに基づく景観誘導

4 計画期間の取組等

9 まちの賑わいづくりの推進

川崎駅周辺地区には、ショッピングモール、市内最大規模の商店街、地下街アゼリア等の商業施設や、SUPERNOVA KAWASAKI、カルツツ川崎、クラブチッタ、ミューザ川崎シンフォニーホール等、魅力ある集客施設や音楽施設が集積しています。こうした商業集積や交通利便性などの立地特性を活かしながら、活力と魅力ある広域拠点の形成を目指し、地域全体の回遊性強化を図ります。

また、道路・公園等を活用したイベントの開催など公共空間の有効活用により、えき・まち・みち・かわが一体となった賑わいづくりや中心市街地の更なる活性化を推進します。



▲JR川崎駅北口通路LEDビジョン ▲水曜ナイトライブ
[すべて川崎市資料]

施策課題	計画期間の取組	当初4か年の主な取組内容(R8~R11)
(21)既存ストックを活用した賑わいの創出	・既存の公共施設、民間施設や隣接する空間などを活用した賑わいの創出を推進します。	<ul style="list-style-type: none">・インバウンドビジネス等推進事業補助金を活用した賑わい創出の支援・公共空間の利活用を通じた賑わいの創出や回遊性の向上に資する取組の推進・高架下空間の活用・路上演奏登録制の本格運用に向けた取組や地域と連携した音楽ライブ等の実施・公共空間を活用した広告塔等の取組の推進
(22)賑わいと活力に満ちた身近な商店街の形成	・川崎駅周辺のイベントを支援し、中心市街地の魅力発信や、魅力あるまちづくりを進める活動等を支援します。	<ul style="list-style-type: none">・かわさきアジアンフェスタの実施・商店街・大型店・市などが主催するイベントの実施・川崎市観光ガイドブック「川崎日和り」による手軽な移動手段の広報・イベントなどについてタイムリーな情報提供
(23)まちづくりと連携した多様な分野の融合による大規模イベントの開催	・川崎駅周辺のまちづくりと連携し、公共空間を利用した多様な分野の融合による大規模イベントを開催します。	<ul style="list-style-type: none">・みんなの川崎祭などの賑わい創出に向けた大規模イベントの開催

4 計画期間の取組等

9 まちの賑わいづくりの推進（コラム）

■ みんなの川崎祭

- ✓ 「みんなの川崎祭」は、川崎市市制100周年を機に誕生した公共空間を活用した取組で、川崎駅前の市役所通り約500m・6車線を歩行者空間とし、居心地が良くウォーカブルなまちを体験できる共創型フェスティバル
- ✓ スポーツ・ダンス・アート・音楽・フードなど多彩なカルチャーを一堂に集結させ、子どもから大人まで、観るだけでなく体験しながら楽しめる“みんな”的お祭り



参考：来場者数10.7万人（R7）

[川崎市資料]

■ 川崎駅周辺での道路・公園等の活用の推進

- ✓ 川崎駅周辺では、立地特性を活かし、広場・道路・緑地などの公共空間を活用した地域の活性化やまちの賑わい創出・魅力向上のため、事業者や地域コミュニティと連携したイベントの実施など、さまざまな取組を推進



[川崎市資料]

■ インバウンドビジネス等推進事業補助金

- ✓ 既存ストックを有効活用したまちづくりの推進を目的として、「将来外国人観光客等新たな来街者の獲得に繋がる、まちの賑わい創出や地域コミュニティの活性化」に資する新たな改装工事(リノベーション工事)に係る費用の一部を支援
- ✓ 旧東海道沿道の景観形成の一助となるような民間施設のリノベーションが増加中



[川崎市資料]

■ 川崎駅東口駅前広場路上演奏の登録制試行実施

- ✓ 川崎駅東口駅前広場での路上演奏について、多くの方々に利用される公共の通路という広場の機能を保つつつ、路上演奏を音楽のまちの貴重な文化として継続していくための試みとして、指定エリアでの演奏活動を登録制にする運用を試行実施



[川崎市資料]

4 計画期間の取組等

10 地域の担い手づくりの推進

持続的なまちづくりを推進するため、市民、事業者、行政が連携・協働する体制を強化し、まちづくりの担い手となる人材を育成・支援します。

全国的にエリアマネジメント活動に取り組む団体が増加している状況を踏まえ、川崎駅周辺地区においても、開発で整備されたオープンスペースを活用した賑わいの創出や、まちなかの各イベント等の連携など、まちの賑わいにつなげていくまちの担い手づくりを推進します。

特に、民間活力を活用した地域活性化を目指し、官民が連携した公共サービスを提供する仕組みづくり（官民連携）を具体化する活動を支援します。

施策課題	計画期間の取組	当初4か年の主な取組内容(R8~R11)
(24)エリアマネジメント団体の組成による持続可能なエリア価値の維持・向上	・ステークホルダーを中心としたエリアマネジメント団体を組成し、まちの魅力と価値を持続的に高めるエリアマネジメントを推進します。	・エリアマネジメント団体の組成に向けた取組 ・公共空間等の活用の更なる推進に向けた都市再生推進法人の認定・検討

コラム

■ [(一社)大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会]

- ✓ 活動エリア:千代田区大手町・丸の内・有楽町地区
- ✓ 大丸有地区の地権者を会員とし、エリアの付加価値を高め東京の都心において持続的な発展に向けた多種多様な取り組みを展開
- ✓ 都市再生推進法人の認定を受け、公共空間での取組を展開

▼Marunouchi Street Park



▼エリアマネジメントの推進体制



[出典:大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会]

■ [(一社)日本橋浜町エリアマネジメント]

- ✓ 活動エリア:中央区日本橋浜町界隈
- ✓ 地元町会・商店街・企業・住民が連携しながら、まちの価値向上・活気あふれる地域活動を推進及び支援
- ✓ 正会員として、カゴメ、good mornings、建設技術研究所、TOKYO MIDORI LABO、明治座、安田不動産が参加、一般会員、個人会員、特別会員で構成され、活動を展開

▼浜町マルシェ



▼浜町きれいプロジェクト



[出典:日本橋浜町エリアマネジメント]

5 計画の推進に向けて

計画推進

本計画では、計画期間の概ね12年を見据え「目指す市街地像」、「まちづくりの基本方針」、「まちづくりの基本施策」、「施策課題」や「計画期間の取組内容」を位置づけています。また、4年間に実施予定の「主な取組内容」を整理しています。

計画の推進に向けては、川崎市総合計画実施計画と整合を図り、概ね4年ごとに「主な取組内容」の時点更新を行います。

時点更新の検討にあたっては、駅周辺地区の商業・交通・環境・利活用等に係る計画推進庁内会議を開催するなど府内関係局等と連携するとともに、市民等の意見を参考にしながら、社会状況の変化や新たな課題等への対応などを図ります。

※本計画では指標や目標の設定は行いませんが、川崎市総合計画実施計画や都市再生整備計画の指標を適切に確認し、時点更新時に活用します。



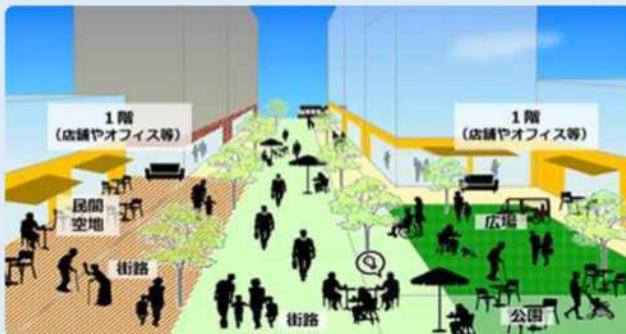
參考資料

参考1 まちづくりを取り巻く環境変化とこれまでの取組

(1) まちづくりを取り巻く社会動向の変化

■ウォーカブル

「都市再生特別措置法等の一部を改正する法律（令和2年法律43号）」により、市町村が、まちなかにおける交流・滞在空間の創出に向けた官民の取組をまちづくり計画に位置づけることができるされました。



<参考>

※都市再生特別措置法等の一部を改正する法律（令和2年）

※まちなかウォーカブル推進事業（令和2年度創設）

■アフターコロナ

新型コロナ危機の影響で、いわゆる「三つの密」を回避することが必要とされる中、満員電車や、都心オフィスなど「都市の過密」という課題が改めて顕在化、これまでの都市における働き方や住まい方を問い合わせ直すことが求められています。

テレワークの導入促進や居心地の良い都市空間づくりが進められています。

■グリーンインフラ

国土交通省は、令和5（2023）年5月に「グリーンインフラ推進戦略2023」を策定し、「ネイチャーポジティブ」などの世界的な潮流も踏まえながら、自然環境の持つ力を防災・減災に生かすグリーンインフラによる対策を推進することとしています。



<参考>

※アフターコロナ時代における地域活性化と観光産業に関する検討会

<参考>

※グリーンインフラ推進戦略2023（令和5（2023）年5月）

※生物多様性国家戦略2023-2030における基本戦略2「自然を活用した社会課題の解決」国土形成計画（平成27（2015）年8月閣議決定）

参考1 まちづくりを取り巻く環境変化とこれまでの取組

(1) まちづくりを取り巻く社会動向の変化

■インバウンド

平成15（2003）年に、訪日旅行の飛躍的拡大のための国を挙げた戦略的な取組みとして「ビジット・ジャパン・キャンペーン」が開始されています。

平成18（2006）年には、観光立国の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進すること等を目的とした「観光立国推進基本法」が制定され、観光は21世紀における日本の重要な政策の柱として位置づけられました。

■ウェルビーイング

日本では、政府が「経済財政運営と改革の基本方針2022」（令和4（2022）年・閣議決定）において「各政策分野におけるKPI）へのWell-being指標の導入を進める」として、従来のGDPなどの客観指標に加えて、ウェルビーイングに関する主観指標を取り込んだ政策の立案や評価を進められています。

国民の幸福度・生活の質向上を政策目標に設定し、主観的指標も含む政策評価を実施しています。

■官民連携

公共サービスの効率化・高度化を図るため、民間の資金、経営能力、技術的能力を活用し、官民が連携して公共サービスを提供する仕組みの構築を推進している。

PPP（公民連携）/PFI（民間資金等活用事業）の推進が図られています。



<参考>

- ※ 観光立国推進基本法（平成18（2006））
- ※ 明日の日本を支える観光ビジョン（平成28（2016）年）
- ※ 第4次観光立国推進基本計画（令和5（2023）・閣議決定）

<参考>

- ※ 経済財政運営と改革の基本方針2022（骨太方針2022）
- ※ 満足度・生活の質に関する調査Well-beingに関する関係府省庁連絡会議（令和3（2021）年7月設置）
- ※ 地域幸福度（Well-Being）指標（デジタル庁）

<参考>

- ※ PFI法（平成11（1999）年制定、平成29（2017）年改正等）
- ※ PPP/PFI推進アクションプラン

参考1 まちづくりを取り巻く環境変化とこれまでの取組

(1) まちづくりを取り巻く社会動向の変化

■DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

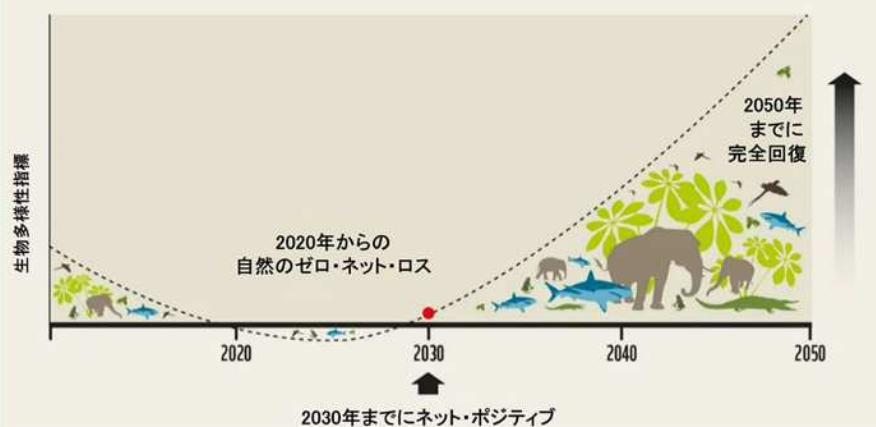
令和2（2020）年12月、政府において「デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針」が決定されました。

企業の競争力維持・強化のため、デジタル技術を使って新たなビジネスモデルを展開し、ビジネス変革を促進する取組が進められています。

■ネイチャーポジティブ

令和4（2022）年12月に開催されたCOP15において、平成22（2010）年に採択された愛知目標の後継となる、2030年までの世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、令和12（2030）年ミッションとして「生物多様性の損失を止め反転させる」すなわち「ネイチャーポジティブ」が掲げられました。

自然のための世界目標:2030年までのネイチャーポジティブ



<参考>

※デジタル社会の実現に向けた重点計画（令和7（2025）年・閣議決定）

※デジタルガバナンス・コード2.0など、
Society 5.0実現に向けた改革政府情報システム最適化計画データ利活用推進基本計画

<参考>

※生物多様性国家戦略2023-2030（令和5（2023）年・閣議決定）

※ネイチャーポジティブ経済移行戦略（環境省、農林水産省、経済産業省、国土交通省）

参考1 まちづくりを取り巻く環境変化とこれまでの取組

(2) これまでの主な取り組み

①道路・公園等、公共空間の有効活用の取り組み

■川崎駅周辺での道路・公園等の活用の推進

川崎駅周辺では、立地特性を活かし、広場・道路・緑地などの公共空間を活用した地域の活性化やまちの賑わい創出・魅力向上のため、事業者や地域コミュニティと連携したイベントの実施など、さまざまな取組を進めています。

<みんなの川崎祭>



[川崎市資料]

<稻毛公園>



[川崎市資料]

<多摩川見晴らし公園>



[川崎市資料]

■居心地のよい公共空間の整備

川崎駅周辺では、公共空間等を活用した賑わいづくりや回遊性の向上に向けた取組を推進しています。コロナ以降の働き方の多様化等の変化により、公共空間に求められるものも変化している機会を捉え、「長時間の滞留を支える高質な屋外空間づくり」に向けた取組を実施しました。

<京急川崎駅前道路社会実験>



[川崎市資料]



[出典:parkERs]

■「まち」と「かわ」を賑わいでつなぐイベント「DISCOVER KAWASAKI 2024」

「えき・まち・みち・かわが一体となった新しい文化発信」に向け、官民一体で公共空間等を活用した賑わいづくりや回遊性の向上に向けた取組を実施し、さまざまな人の滞留を生み、多様な交流を創出しました。

<連携イメージ>



[川崎市資料]

参考1 まちづくりを取り巻く環境変化とこれまでの取組

(2) これまでの主な取り組み

②川崎駅周辺のまちづくり

開発等によって整備されたオープンスペースを活用し、地域や周辺企業等と連携した賑わいづくりを行っています。

■「さいわいにぎわいフェス」

川崎駅西口周辺の企業や団体、幸区役所が協働し、地域を盛り上げるイベント「さいわいにぎわいフェス」が開催されました。

西口の開発によって整備されたオープンスペースを利用し、西口の魅力を盛り込んだ誰もが楽しめるさまざまなコンテンツで、地域を盛り上げました。



[川崎市資料]

■「水曜ナイトライブ in LAZONA」

川崎駅西口に立地する商業施設「ラゾーナ川崎プラザ」のルーファ広場で、音楽を通じた交流や賑わいづくり、新たなマーケットの創出等を目指して、地域と連携した音楽ライブや物販などを行うイベントを継続的に実施しています。



[川崎市資料]

参考1 まちづくりを取り巻く環境変化とこれまでの取組

(2) これまでの主な取り組み

③地域資源を活かしたまちづくり

「ここには宿場があった」ということを「川崎の魅力」として再認識し、これまでの取組やイベント、街なみづくりなどを発展させ、川崎宿とその周辺の価値の向上を図り、訪れる人を増やしていくことで住む人の更なる愛着と誇りの醸成を目指しています。

■地域資源「東海道・川崎宿」を活かしたまちづくり

東海道川崎宿の誕生から400年目に当たる令和5（2023）年に向けて、東海道沿いの街路灯へのフラッグや史跡案内板、浮世絵マンホールの設置などの景観づくりのほか、「東海道川崎宿場まつり」やウォークイベント、川崎宿が発祥と言われている「三角おむすび」を活かした取組など、地域住民との協働によるまちづくりを進めています。

令和5（2024）年度以降は、地域の魅力を創造・発信するネットワークの継続・発展、担い手たちが引き続き活躍できる場の形成を図ることで、市民主体のまちづくりを進め、次世代への継承を推進しています。



[東海道川崎宿HP、川崎市資料]

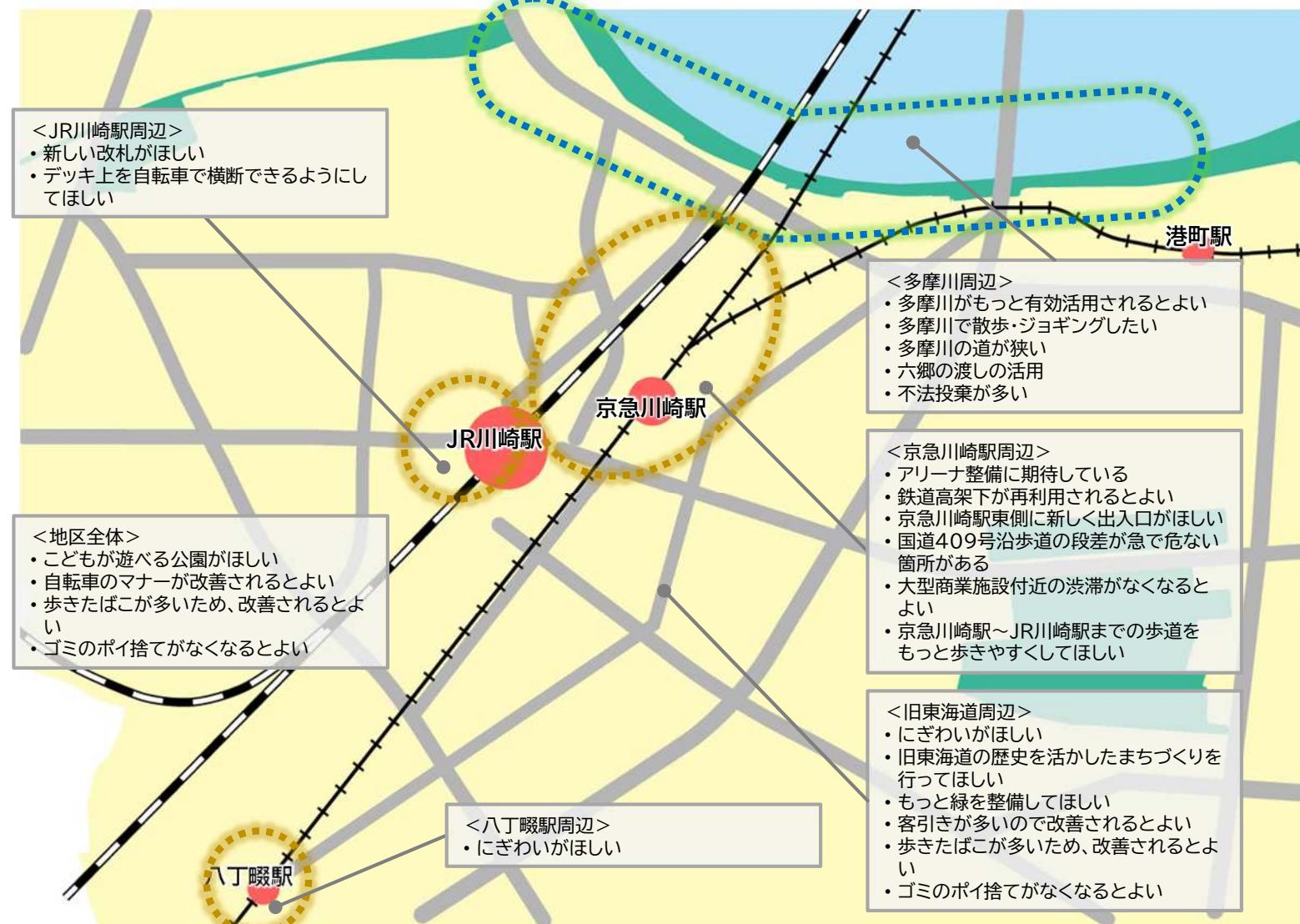
参考2 市民意見等の把握

(1) 市民意見等の把握

みんなの川崎祭・水曜ナイトライブでの自由意見募集でご回答いただいた意見をとりまとめました。

【調査方法】

川崎駅周辺において、「もっとまちがこうなったら良いなと思う場所」に自由にふせんを貼ってもらいました。



参考2 市民意見等の把握

(2) 市民意見等の把握 (1/2)



参考2 市民意見等の把握

(2) 市民意見等の把握 (2/2)

川崎駅周辺の町内会・自治会、商業関係団体等へのアンケート調査でご回答いただいた自由意見をとりまとめました。

<地区全体>

(再整備)

- ・川崎駅は、品川駅・横浜駅の中間に位置し通過点との印象があるため、再整備により「川崎目的」の来訪者増加と魅力向上を期待したい
- ・川崎市の都市機能、特に宿泊機能が充実すれば、インバウンドを含む来街者が増加し、近隣商業施設等の来館者増も期待できる
- ・「また訪れたい」と思われるまちを実現するため、事業者の意見を反映し、地権者等と連携した一体的なまちづくりを進めることが重要である
- ・衛生面や生活のしやすさ、利便性の向上を図り、知的で上品なイメージを備えた川崎を目指してほしい

(にぎわい)

- ・川崎駅周辺で沢山のイベントが行われ、川崎のまちがにぎやかになるとよい
- ・現在、川崎は商圏が狭いが、まちのにぎわい創出と交通利便性の向上により、周辺居住者の利便性向上と川崎駅周辺への来訪機会増加が期待できる
- ・道路を車両専用とせず住民・歩行者にも一部開放することで、地域の利用価値を高め、インバウンドを含む賑わいの創出につながる
- ・来訪者が目的地へ円滑に移動できる交通インフラの整備と、地域事業者の参画による魅力発信にぎわい創出が重要である
- ・まちのにぎわいが高まれば、川崎への消費が増え、よりよい市につながると考える

(回遊性)

- ・回遊性を高めるアートやイベント等の創出により来街者が増加し、近隣商業施設等への来館者増も期待できる
- ・駅周辺の回遊性向上に向け、交差点ごとに分かりやすい標識を段階的に整備するなど、市外からの来訪者も安心して歩けるまちづくりを行ってほしい

(交通)

- ・幸区から本庁舎・税務署・市立病院・カルツツ等へは、バスと駅構内の徒歩移動を伴い、高齢者には不便なため、より効率的で利用しやすい交通手段の整備をしてほしい

- ・八丁畷から市立病院・カルツツかわさきへ乗り換えのバスルートがほしい
- ・小型バス等を導入し、路線バスの一方通行を解消して、高齢者が往復利用できる交通体系の整備をしてほしい
- ・高齢化によりバス利用者が増加しているため、コミュニティバスを導入してほしい
- ・4m未満の道路を無くし、消防車が通れる道路にしてほしい
- ・市民の高齢化に備えた交通手段の充実と、子育て世代が住みやすいまちづくりを行ってほしい

(まちの担い手)

- ・民間活力を大いに活用した品格のある駅周辺のまちづくりに期待
- ・まちなかの点と点を繋ぎ、エリアを面的にプランディングしていくプレイヤー（地域の担い手）の必要性を感じる
- ・町会役員の高齢化や若年層の無関心により、町会の必要性が薄れつつある
- ・町会運営の担い手が不足している
- ・町内会の役員・担い手が不足しており、原因として70歳以上でも就労を続ける人が増え、地域と関わる時間を持ちにくくなっていることが考えられる
- ・地域を活性化し、住民に町会活動に関心を持ってもらいたい



<地区全体>

(その他)

- ・ただ買い物や交通に便利なまちというだけではなく、音楽やスポーツも楽しめるまちであることが川崎の魅力だと思う
- ・花壇や喫煙所の充実に加え、駅周辺への区役所（行政出張所）設置により行政機能の利便性向上を図ってほしい
- ・少子高齢化対策により新しい世代が住みやすい環境を整えることが、よりよい川崎につながると考える
- ・地域住民の利便性向上により地域活性化とまちの価値向上が期待できる。併せて、老朽建築物の更新により防火性・安全性が高まり、歴史的建築物の再生による保全にもつながる
- ・歩きたばこ・自転車マナー、駅エスカレーターの混雑対策など、住民のマナー向上もまちづくりに取り入れることを検討してほしい
- ・中長期的には、川崎アプローチ線により南武線が浜川崎まで延伸し、将来は天空橋や都内への直通を期待する
- ・外国人が多く住む地域が多いため、外国人にもわかりやすい対応が求められている

<地区全体>

(防災・防犯)

- ・防災強化・風水害に対する安全なまちづくりを行ってほしい
- ・川崎駅に降りてまず「花のないまち」と感じており、その背景には客引き行為や路上演奏などの具体的な事案があると考えられる
- ・木造家屋は減少しており、延焼リスクは低下していると考えられるが、震災は近い将来発生するとされているため、人口の多い川崎市では、物資不足に加え、避難所の収容力不足が懸念される
- ・電柱・電線の地下埋設を進めるとともに、裏道や人通りの少ない場所への防犯カメラ・防犯灯の増設を行い、防災・防犯対策の強化に向けた予算の拡充を求める
- ・気候変動や地震、闇バイトの横行を踏まえ、防災・防犯を強化し、安心して暮らせるまちづくりに注力してほしい
- ・自然災害で壊滅的な被害がいつ起きててもおかしくないため、防災機能の強化は生活者にとって絶対条件だと考える
- ・予期せぬ災害の多発、路上や植え込みのごみの増加も課題である
- ・風水害・地震への防災対策と訓練を強化した安全なまちづくりや、日本らしさとグローバル性の両立による川崎のイメージ向上を期待する
- ・防災機能と環境は関連性があり継続した取り組みが必要だと考える
- ・海拔が低いので水による被害を少なくしてもらいたい
- ・川崎駅は1日約39万人が利用する政令指定都市の玄関口で、交通網と産業・商業により賑わっている。一方、7区それぞれ特性に応じた犯罪傾向があるため、治安強化が必要である

(環境)

- ・みどりや花をもっとふやしてほしい
- ・現在の異常気象の原因とされる地球温暖化への対策として、環境配慮の視点は必要だと思う
- ・たばこの吸い殻やガムのポイ捨て防止に向けた啓発活動を実施し、川崎の玄関口にふさわしいきれいなまちづくりを行ってほしい
- ・不法投棄が増加しており、外国人を含めたマナー啓発・教育の強化が必要である
- ・街頭マナーを向上させ、歩きづらい仲見世通りを改善し、川崎の玄関口にふさわしい環境整備を行ってほしい
- ・飲食店の呼び込みや禁煙エリアでの喫煙等が目立つことや、タバコの吸い殻・ゴミが道路上等に多く散乱している、排水溝にも多数捨てられている
- ・清掃と巡回の強化が必要だと思う
- ・川崎駅周辺のマナー向上は、川崎のイメージアップに寄与し、市外からの来訪者を呼び込む基盤となっていると思う
- ・喫煙所について、マナーの悪さや煙の流入により近隣施設等への影響が生じているため、喫煙所の撤去または煙が漏れない仕組みへの再整備を検討してほしい